

# 第4回 高2英語

## 総評

今回の試験では、リスニング、語句整序、和文英訳、自由英作文、長文読解といった多様な出題により、受験者の総合的な英語力を測ることを目的としている。今回の結果を見て、自分の得意な分野と苦手な分野を把握し、的を絞った学習計画を立てられるようにしたい。

また、総得点だけでなく、大問ごとの出来や、誤答の内容も把握してほしい。特に作文問題や、長文問題中の記述形式の問題などは、一朝一夕に得意になる分野ではないが、大学入試に向けて必ず実力をつけなければならない部分である。模範解答と解説をよく読み、自分の答案に足りなかった部分や工夫できる点を見つけるようにしよう。

## 問題別講評・採点基準

### 1 リスニング

リスニングでは必ず放送前に設問に目を通し、メモを取りながら音声を聞くようにしよう。

#### 問題A

(3) 誤答としては **d** が多かった。音声に出てきた **bonus** につられないこと。

#### 問題B

**Part 1** (4) 2つともできて与点した。(ア) は割合よくできている。**kemical** や **cemicle** などのスペリングミスに気をつけたい。(イ) **point** とした誤答が散見されるが、直後に名詞 **pleasure** があるので、形容詞が入ることに注意しよう。

**Part 2** それぞれ、完全に書けて与点した。

(ア) **whether it is resulted on** や **whether it is a result** など、弱く発音されて聞き取りにくい単語がやはり書けていない。(イ) でも **to** を聞きもらした **I can learn** (ハ) **avoid** や **I can learn to avoid to** などの文法ミスが見られた。ディクテーションでは一般的に **a, of, the** のように弱く発音される単語を聞き逃さないことに加えて、自分の解答が文法や語彙の知識に照らして誤りがないか確認することに注意したい。

### 2 語句整序・和文英訳

#### 問題A 語句整序

英文中の整序問題で日本語も与えられていない。前後の文脈に合わせて、与えられた語句から文を作り上げることができるかどうかを見た。

(1) 誤りの多い解答では、最後の3つの並べ替えで苦戦している解答が目立つ。**best** を入れる位置が難しかったのかもしれない。この **best** は副詞である。また **each** の位置を **the one** の前後に置いた誤りも多かった。**one** が何を受けるかも確認が必要で文脈の理解が不可欠だった。

(2) 誤りの多くは **those** が人々を指すと気づいていなかったと推測される。例えば、**those (who are) rich** で「裕福な人々」の意味を表す。**not inaccessible** と続けた解答もあったが、文脈と合わない。

(3) は倒置が起こる場合を見抜けるか試す出題。**Not until** ～を文頭に出すことに気づいていた受験生もいたが、**ア (appeared did) → エ (the phonograph)** と倒置の箇所を誤った答案が多かった。

(4) (5) は比較的よくできていた。決まったイディオムをおさえておこう。

#### 問題B 和文英訳

企業の学生採用をテーマにした和文からの出題。訳しやすい日本語に直してから英訳する姿勢を保ちつつ、基本語を用いて簡潔に表現できるようにしたい。減点された部分を必ず見直し、同じ間違いを繰り返さないようにしよう。

④基本事項を確認する目的でこの小問を作った。「どこの大学を出たか」「大学で何を学んだか」では間接疑問文を使って表す場合、**what university did students graduated from / what did students study** など間接疑問文の形が徹底できていない解答がまだまだ目立った。

⑤まず「のどから手が出るほど」という表現をどう英語で表せるかを見た。訳出されていないものは減点としている。直訳している解答も一部見られたが、概ねここは意味を汲み取れていた。受験生の中では **really** が多かったが、副詞を使わない **be keen to … ; be anxious to …** なども広く許容した。「対応する」は解答・別解以外では **cope with** ～ ; **address** なども有効である。「日々」は **every day** と2語で表すべきところを **everyday** と1語で書いているものなど細かいミスも避けたいところであ

る。

©「～だからだ」という日本語を見て、単独の Because 節を使った答案が散見された。Because S + V ~という形で単独で使えるのは、Why …?で問われた時の返答で用いる場合である。誤答の中には This is why S + V ~ (そういうわけで～) も多かった。「生き残り」を survive (動詞形) と書いている答案が目立った。「かかっている」を depend on を進行形で表しているものがあつたが、通例進行形は使えない。

### 3 自由英作文

文法・語彙点と内容・構成点の2つの観点に分けて採点した。指定語数に対する不足・超過については、5点の減点。ただし、指定語数の半分(30語)未満のものについては、文法・語彙点を与えていない。

○文法・語彙点 ……10点

誤りの数に応じて、10点から0点のいずれかの点数をつけている。

○内容・構成点 ……10点

内容に応じて、10点、7点、4点、0点のいずれかの点数をつけている。以下のような答案は内容・構成点の減点対象となる。

- ・賛成・反対の理由の説得力が欠けるもの
- ・賛成・反対の論旨に一貫性がないもの

今年のテーマは、受験生にとってなじみのある話題であったせいか、内容は考えやすかったのではないだろうか。今回は DVD にすることに賛成か反対かを問うもので、DVD と紙〔冊子〕の卒業アルバムのどちらも欲しいなどの解答は基本的に許容しなかった。解答例・別解の他に、賛成・反対例として「DVD は紙〔冊子〕に比べてデータが多く入れられる」「DVD は壊れると見られない」「DVD は小さくて失くしてしまうかもしれない」などが書かれていた。だが「DVD は紙〔冊子〕に比べてたくさんのことを思い出す」でとどまっているなどその理由、主張のサポートがないものも多い。1つのことを掘り下げて書ける力も養う必要がある。今後のために、形式面で指摘をしておきたい。第1文(I agree with the idea.)と最終文(So, I agree with the idea.)ではほぼ同じ文が重複する解答例が見受けられた。学校等でも指摘されているとは思いますが、本問のように語数の少ない場合は同じ文の重複は避けたほうがよい。

### 4 長文読解

「思考は思考にすぎず、現実ではない」「思考が感情を作っている」さらに「想像したことが現実のものではないことに気づけば人生の悩みを減らせるだろう」と説く自己啓発本からの出題。深く思考することを否定しているわけではないだろうが、思考により生まれた否定的な感情に心を乱されることなく人生を送ってほしいという内容である。

(1) 下線部直後の文を2つに分け、それぞれのポイントを正しくまとめられているものに点を与えた。各ポイント中での誤訳はポイント分の減点で、原則として部分点はナシとしたので、点差が開いたと思われる。設問は「友人の離婚」について聞いた時の具体的な「思考」について述べることを求めている。具体的でなく下線部の和訳に終始したものや、仮定法の2つの節をふまえた説明になっていないものが目立ったが、細かい点はどうあれ、「同じ出来事でも違った視点から考えると違う感じ方になる」という著者の主張自体は理解できている答案も見られた。

(5) 文章全体の主旨を問う問題だが、比較的よくできていた。

### 5 長文読解

人間の声を電子的に合成する技術の進歩と現状について述べた文章。カーナビなどの案内音声の思い浮かべながら読むとわかりやすいだろう。

(1) pronounced quite differently の修飾位置がわかっていないものが見られた。解説にもあるように、文法的には a noun for a heavy metal を修飾するので「発音のまったく異なる～名詞」のように訳すとよい。「コンピューターはどのように区別して発音すべきか」のように a computer を主語、pronounced quite differently を述語として続けて訳してしまったものが目立つ。heavy metal は専門用語に近いので「ヘビーメタル;ヘビメタ」などの誤訳はいたしかたない。

(3) 空欄ではなく解答してある答案は概ね理解できているものが多かった。

(4) pass over ~や build の不適切な訳が多い。

(5) f はよくできているが、c の代わりに d を選んだものが多い。